

モビリティポート実証実験（高蔵寺スマートシティ推進検討会）

■都市課題

高齢化による「移動」の課題に対応
坂が多い高蔵寺NTでは、高齢者の多くは免許を持っているが、免許返納後に「移動」の不安を抱える住民が多い。

■解決方策

移動を「スマート化」する取組の推進
自らの運転だけに頼らず暮らせる社会の実現を目指し「ゆっくり自動運転」や「AIオンデマンド乗合サービス」等多様な取組を推進。

■KPI

実現に向けた指標設定

要介護等認定率、高蔵寺ニュータウンへの転入・転居者数、戸建て住宅の空き家率、公共交通利用者数等、自治体の目指す姿からKPIを設定。

■実証実験の概要・目的

交通結節点のスマート化によるにぎわいのある安心安全なまちづくり

高蔵寺NTでは、新たな交通システムの実証実験や社会実装を進めてきたが、今年度より新たに交通結節点として交通情報・防災情報・商業連携を行うモビリティポートを設置し、公共交通の利用促進を図り、にぎわいづくりや安全安心なまちづくりに向けた実証実験を進める。

■実証実験の内容

高蔵寺NT内5箇所に「モビリティポート」を設置

商業機能が集積する「センター地区」や団地内、公共施設や病院等、全5箇所に「モビリティポート」を設置した。

オンデマンド乗合サービスの予約、店舗情報等、地域内交通の利便性とまちのにぎわい創出に向けた機能を提供

AIオンデマンド乗合サービスの予約機能やシェアサイクルの貸出機能、バス停の時刻表、地域内の商業施設に関する情報や安心安全なまちづくりのための防災機能等を「モビリティポート」に付与し情報提供を行った。

■アピタ館東口



■実証実験で得られた成果・知見

サイネージや各種交通サービスの利用

- 2023年1月30日から3月3日までの33日間の実証実験期間中、5箇所のモビリティポートにおけるサイネージのタッチ回数は、合計5,673回（平均172回/日）となった。
- シェアサイクルは期間中、延べ663回貸し出され、地域内のポート間の移動の他、高蔵寺NT外への移動も確認された。
- AIオンデマンド乗合サービスは、期間中271回（11.3回/日）利用され、うち19回がサイネージで利用予約された。2023年2月には前年同月比23%増となる215回の利用があった。

利用者の声、地域関係者ご意見の把握

- モビリティポートの利用者から「使いやすい」「見やすい」などの声をいただいた一方、「教えてもらわないと触りにくい」等の声が聞かれた。
- モビリティポートを設置した施設管理者等からは、機能面に関する肯定的な意見や、施設来訪者の増加等の具体的なメリットが見られなかった等のご意見をいただいた。

■今後の予定

より使いやすいモビリティポートを目指した技術開発と機能の充実、各種交通サービスやサイネージの持続的な運営体制の構築、まちの「にぎわい」や「価値向上」に資するモビリティポートのあり方を引き続き検討。

